

私語や不適切な言動への対応

1 はじめに

中学校の若い教員から、「私語を注意しようと思うが、その生徒との人間関係が崩れないか心配で、躊躇してしまう。」という話を聞きました。その時の対応を考えました。

その他に先輩教師や名城大学の先生に教えていただいたことをまとめました。

2 注意の仕方(言い方)

A案

「静かにして」と全体に呼びかけたら、とにかく待つ。静かになるまでずっと待つ。

待っているとき、私語をしている人の方をずっと見ているという方法もある。

全員ができれば「(協力してくれて)ありがとう」と言う。

人権やいじめに関すること、進路に関することなど、特に大切な(重大な)話をするときは、

「両手は両膝にのせて、姿勢を正して、私の顔を見て(こちらを見て)」と指示する。

とにかく待つ。全員ができるまで待つ。

B案 私語をしている人に

「～さん、話がしにくいから、私語を止めて」

私語が止まったら、「(協力してくれて)ありがとう」と言う。

C案 私語をしている人に

「～さん、何か困っていることがありますか？」

「ない」ということなら、この言葉がけで私語が止まるはず。

止まらなければ、もう一度聞き、「ない」ということであれば、「私語はしません」と言う。

「ある」ということなら、困りごとを一緒に解決する。

3 思春期の子どもへの褒め方・しかり方

小学校高学年と低学年では、褒め方としかり方を変えるべきと教えていただきました。思春期の子どもたちへの対応には配慮が必要です。

低学年では「偉いね」「素晴らしい」「賢いね」で通用しますが、思春期の子どもたちには通用しないことがあります。

「偉いね」→褒められていない人が「どうせ私は偉くないもん」とつぶやく

「賢いね」→褒められていない人が「どうせ私は賢くないもん」とつぶやく となることもある。

そこで、I(アイ)メッセージで伝える。

2本のアンテナと言葉掛け

ルールを守っている → うれしい ありがとう

ルールを守っていない → 悲しい 「こまるなあ」

4 不適切な発言(言動)があったときの対応

不適切な発言があったときは、直ちにダメであることを指摘すべきです。

→ 「どういうこと？」(「もう一度言って」:内容によります) 「どういう意味？」

「後で、先生と話をしよう」:

差別、いじめ、個人の尊厳にかかわる発言(言動)については、じっくり話を聞き、深く考えさせることが必要です。落ち着いたところ(落ち着いた場所、落ち着いた時間帯)でじっくり話を聞きます。教師から話をするのではなく、その子の思いを聞き出すという方法が良いと考えます。

なぜ、その言動をしたのか。

そのときのあなたの気持ちはどうだったか。

された相手はどのように思っただろうか。

周りにいた人はあなたのことをどのように思うだろうか。

あなたが、同じことを友だちからされたら、どう思うか。

その時、どうすればよかったのだろうか。

これからどうするのか。

(謝罪を含め、原因となったことが再び起こったときの対応の仕方を考えさせる。)

5 授業中の私語

(1) 教師が話をしているとき

・「〇〇さん、私が話をしにくいから、少し黙ってていてくれる？」

私語を止めたら、「協力してくれてありがとう」

(2) 作業や学習課題への取組中

・「今、やるべきことをしなさい。」

・「何か困っていることがありますか？」

6 全校集会・学年集会での初めに

先輩教師から教えていただいたことです。「静かにしましょう」ではなく、「落ち着いた雰囲気を作りましょう」がよいとのこと。

7 おわりに

注意の方法をいろいろ知っていると良いと思います。使い分けることができます。